ペーパー版
地域と農政を結ぶ
埼玉地域情報ネットワーク
彩ねっと
令和8年
Vol.115
R8. 11. 2
関東農政局
埼玉県拠点

埼玉県拠点が食と農のトークイベントを開催！



トークセッション風景（左から星野氏、中村氏、剱持氏）

令和8年10月19日（月）、渋沢MIXにおいて、「埼玉の食と農の可能性を拓く いちご・深谷ねぎから学ぶ“価値を高める農業”」と題したトークイベントを開催しました。
本イベントは、農産物の価値を高めるブランドづくりや加工・商品開発、販売の工夫について考え、交流とおして連携の可能性を見つける機会として開催したもので、①講演、②トークセッション、③ネットワーキング（交流会）の3部構成で実施しました。



講演では、県内で特色ある農業経営を展開する、<株式会社ヒロファーム>代表取締役の中村知由氏と、<株式会社和合堂>取締役の剱持哲信氏をお招きし、それぞれの経営理念やブランドづくりへの取組、消費者に選ばれるための工夫などについて紹介いただきました。
続くトークセッションでは、渋沢MIXチーフコミュニティマネージャーの星野邦敏氏にファシリテーターを務めてもらい、「農産物がどうすれば選ばれる商品になるか」「埼玉県で農業を行う強みとは」「埼玉農業の可能性と未来」をテーマに、農産物のブランド化や販路開拓、地域資源を活用した付加価値創出などについて活発な意見交換が行われました。
最後のネットワーキング（交流会）では、参加者が登壇者と直接交流し、また参加者同士の交流もあり、農業経営や地域農業の将来展望について活発な情報交換が行われ、盛況のうちに終了しました。
埼玉県拠点では、今後も地域農業の発展につながる取組を進めてまいります。

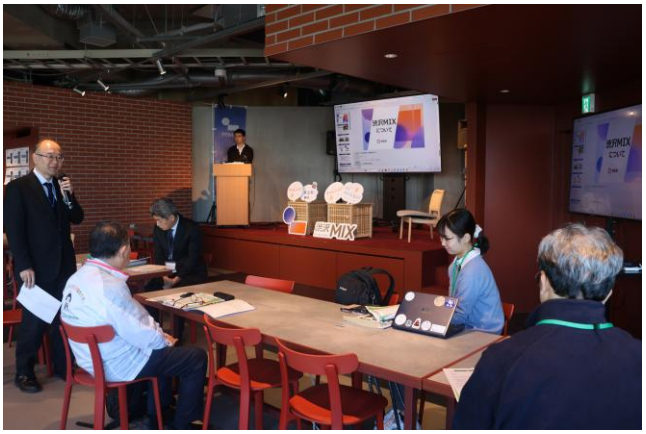


ネットワーキング（交流会）



報道関係者等との現地調査を実施！
「食べる・つながる・循環する～持続可能な食の未来へ～」

埼玉県拠点では、令和8年10月27日（火）に、報道関係者の皆様に対して、埼玉県における農業に関する理解や関心を高めてもらい、農業に関する報道機会が増えることをもって、国民の農業への理解醸成を図りたいと考えていることから、「報道関係者等との現地調査」を実施しました。



①渋沢MIX
様々な業種や規模の企業や起業家等の交流・マッチングによりイノベーションを創出する拠点





②ASTRA FOOD PLAN株式会社
規格外や生産余剰、残渣として捨てられている農産物をパウダー化して再生し、新たな食品原料にすることでフードロス削減に取り組む事業者

当日は、①渋沢MIX（さいたま市）、②ASTRA FOOD PLAN株式会社（富士見市）、③株式会社ガスパル（さいたま市）を訪問しました。

各訪問先では、それぞれの特色ある取組や事業内容について説明を受けるとともに、調査（取材）を行いました。

参加した報道関係者には、食品ロス削減に向けたアップサイクル技術やアクアポニックスなどの先進的な取組について理解を深めていただく機会となりました。



水耕栽培（バジル・セルリー等）の説明を聞く報道関係者

③株式会社ガスパル
魚の陸上養殖（チョウザメ・ティラピア）と水耕栽培を組み合わせた循環農業に取り組む事業者



陸上養殖（チョウザメ）を取材する報道関係者

マイクロバスでの移動、お疲れ様でした。

農林水産省

彩の国　農業人

～障害者の就職先を作るため 教員を退職して新規就農～ 芹澤　健さん

川島町で、障害者を雇用し、主にニンジンなどの露地野菜の生産方法や作業内容を工夫して障害者が働きやすい農園経営を行う、芹澤農園の芹澤健さんをご紹介します。

川島町の約 13ha の農地で主に露地野菜の生産を行う芹澤農園。代表の芹澤健さんは、特別支援学校の教員として知的障害がある生徒と向き合う中で、農作業が彼らの適性に合うことを実感しました。しかし、卒業後の進路として農業を行っている作業所はほとんど見つかりませんでした。「教員志望者は他にもいるが、障害者の就職先をつくれるのは自分しかいない」。その思いから平成 28 年に教員を退職し、翌 29 年 12 月、知人の紹介で借りた川島町の農地で新規就農を果たしました。現在もさいたま市の自宅から車で圃場へ通う日々を送っています。



収獲したニンジンと芹澤さん

就農当初はトマトの水耕栽培に取り組みましたが収益は伸びず、露地栽培へと転換。現在はニンジンを主軸にキャベツ、タマネギ、施設栽培のスイートコーンなどを生産しています。作物選定の基準は明確で、「知的障害者が作業できるか」です。以前生産したブロッコリーは花蕾の大きさの判別が難しく収益を下げていましたが、ニンジンは播種・収穫・洗浄・選別を機械化し、袋詰め作業を任せられます。キャベツは一斉収穫、タマネギは葉が倒れたものを収穫するため、大きさの判断が不要で作業を任せやすいので選定したとのことです。かつての教え子である知的障害者 1 名を県最低賃金以上で雇用し、生産管理から収穫まで幅広く担ってもらっています。

今後は 90 馬力の大型トラクターやドローンの導入で効率化を図りつつ、就労支援事業所と連携も検討しています。芹澤さんは次のように言います。「多くの農福連携は企業と福祉の連携にとどまり、農業で収益を上げる例は少ない。本当の意味で取り組む個人農業者を支援し、障害者の就職先となる農場を増やしてほしい」。最後に新規就農に当たってのアドバイスを聞いたところ、「就農する地域に１人で飛び込むと、農地を借りるのも大変で、相談する相手もいない状態になり行き詰ってしまいます。まずは就農する地域の信頼できる農業者に師事し、地域との橋渡しや農作業のアドバイスをしてもらえる関係性を築くことです」と話してくれました。



定植間もないキャベツ畑にて

編集：関東農政局　埼玉県拠点

〒330-9722　さいたま市中央区新都心 2-1　さいたま新都心合同庁舎２号館

TEL 048-740-5835

＜関東農政局ＨＰ＞　https://www.maff.go.jp/kanto/